

～幼保小の子どもの学びと育ちをつなぐ～

架け橋通信



第12号
令和7年4月発行

京都市教育委員会 学校指導課
幼保小の架け橋プログラム担当
TEL:075-222-3746

合科的・関連的な指導で 新1年生に安心感と自己発揮を!

～架け橋プログラムの第一歩! スタートカリキュラムの改善・充実に取り組もう!!～

京都市では、4月から「幼保小の架け橋プログラム」を市内全ての小学校区で実施していきます。まず小学校で取り組んでいただきたいのがスタートカリキュラムです。『架け橋通信 第11号』でも、スタートカリキュラムの重要性を「入学式の工夫」や「弾力的な時間割」「幼児期の経験を教科へつなぐ」などの事例を用いながら紹介しました。今回は、「合科的・関連的な指導」について紹介します。

○合科的・関連的な指導とは…

幼児期の教育とのつながりや児童の発達の特性を踏まえ、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるよう、生活科を中心として複数教科の目標や内容を組み合わせて学習活動を展開する指導です。

◎「京都市スタンダード」・「京都市 幼保小の架け橋プログラム 手引き」より引用

事例 ①

国語科『どうぞよろしく』と図画工作科・生活科

○国語科『どうぞ よろしく』(全3時間)+図画工作科(1時間)・生活科(1時間)

この単元では、言語活動を「めいしカードで じこしょうかいをしよう」と設定し、自分の名前や伝えたいことを書いた「めいしカード」をつかって、学級の友だちや校内の教職員と仲良くなることで自分のことを見守ってくれている人や知ってくれている人が学校にはたくさんいることを知り、安心して学校生活を送れるようにすることをねらいとしています。

●指導計画例

(第1時) 出会う

- ① 学習の見通しを持つ。

[学習課題] めいしカードで じこしょうかいをしよう

- ② 「い・ち・ね・ん」と組や自分の名前を平仮名で書く。

(第2時) 追究・表現する

- ③ 自分の名刺カードを書き、自分のことを知ってもらうために何を伝えるか考える。

◇名刺カードには、名前と好きなものの絵を描くようにする。
(図画工作科との関連的な指導)

(第3時) 生かす

- ④ 名刺カードの名前を学級の友だちと交換して、自己紹介をする。
- ⑤ 学習を振り返る。

◇生活科「きょうは何に会おうかな」の時間を活用して、校内の教職員に自己紹介することもできる。(生活科)



(図画工作科)
好きなものを描いている1年生



(国語科 第3時) 私の名前は、○○です。好きな遊びは…です。

校長先生、こんにちは。
私の名前は、○○です。
好きなものは、イチゴです。



校長先生に自己紹介



保健室の先生となかよし



教頭先生に自己紹介

事例 ②

生活科『いちねんせいが はじまるよ』と各教科

○生活科『いちねんせいが はじまるよ』（全6時間）＋全教科（10時間＋1/2×3時間）

この単元は、クラスの友だちや教師と様々な活動を通して、学校の施設の様子や人々について考え、学校生活は様々な施設や人々と関わっていることが分かり、楽しく安心して学校生活を送ることができるようにするための学習。

●指導計画例

① いちねんせいが はじまるよ（1/2×2 生活科1時間）

② わたしの がっこう（1/3×12 特活4時間）

- ・登校後、下駄箱やロッカーなど学校で出会う場所や施設を使用して、朝のしたくを自分でする。
- ・同級生との交流、読み聞かせ等の時間を過ごす。

◇国語科『おはなし ききたいな』

③ たんけんして みよう（1/2×6 生活科3時間）

④ こうていも たんけんしよう（1/2×2 生活科1時間）

◇国語科『こんな もの みつけたよ』（1時間）

◇図画工作科『どんどん かくのは たのしいな』（1/2時間）

学校で見つけたものを絵に描く

⑤ わたしも できるよ（1/2×2 生活科1時間）

【各教科等を中心とした学習活動】

◇しりたいな、やってみたいな（全教科 6時間）

各教科等の萌芽的な活動を通して、本格的な学習につなげていく。



その他の合科的・関連的な指導事例

○国語科『なんて いおうかな』と道徳科『あいさつのある まいにち』

○音楽科『うたって おどって なかよく なろう』と体育科『からだほぐしのうんどうあそび』

○生活科『いちねんせいが はじまるよ』と算数科や体育科、道徳科

これらの事例は、京都市スタンダードにおける各教科の指導計画例の中に⑧として記載されているので、授業を展開する際に必ず参考にしましょう。

コラム

スタートカリキュラムと学習規律 ～無藤 隆 先生の講演より～

小学校には複数の就学前施設から様々な経験を持った子どもたちが入学してきます。一人一人の個性や経験値も異なる中で、「少しでも早く小学校生活に適應できるように指導したい」と考えるのは、指導者として自然な発想です。

しかし、少し視点を変えてみましょう。1年生の子どもたちは、3月末まで就学前施設での生活を送り、4月から小学校生活が始まります。わずか10日間で環境が大きく変化中、小学校教育は、幼児教育とは異なり、教科ごとの学びを中心に進められることが一般的です。

1年生の担任は、学習に必要な規律を身に付けさせるため、「手の挙げ方」「発表の仕方」「椅子の引き方と立ち方」などを「小学校では、このようにします」と具体的に指導する場合があります。その中で、指示に疑問を持たず従う子もいれば、「なぜこうするのだろう」と考える子もいるでしょう。後者の子どもたちは、疑問を持ちながらも従うことで、「小学校では先生の指示に従えばよい」「深く考えず行動すればよい」と感じてしまうかもしれません。

スタートカリキュラムに関するアンケート調査では、多くの学校が「学習規律についての指導を行う」と回答しているように、学習規律の確立は集団で学ぶ上で重要です。しかし、1年生の子どもたちは「考える力」を持って入学してきます。1年生には「どうすればいいと思う?」「園ではこんなときどうしてた?」と問いかけるなど指導方法に配慮しながら、ともに学習規律を考え、決めていくプロセスがさらに重要ではないでしょうか。1年生の子どもたちが、自ら考え、主体的に行動し、新しい学校生活を創造できるようなカリキュラムを実践していきましょう。

